

セトエダシャク

春から夏に広葉樹の葉を食べるシャクトリムシ（幼虫）。最大長約60mm。体は緑色，ざらざらした感じでつやがない。背中に茶色の斑紋があるが，その大きさは変異がある。頭は暗い茶色で，両側が角張る。

リンゴでは害虫とされている。



1. 老齡幼虫，体長47mm. 1990/7/22.

新得町，シラカンバ.

【学名】 *Cusiala stipitalia*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera)，シャクガ科 (Geometridae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州；朝鮮半島，シベリア南東部.

【特徴】

幼虫は終齡で体長34～58mm。体は緑色，細かな顆粒に覆われピロ-ド状。褐色の斑紋の大きさは変異があり，良く発達した個体では斑紋が胸部第2節から腹部第8節までの背面を縦に走り，腹部第2～5，8各節で側方に張り出す。頭部は暗褐色，背面両側で角張る。胸脚は暗褐色。

【生態】

幼虫は食葉性，ポプラ，ダケカンバ，リンゴ，イヌザンショウ，カンキツ，アカメガシワが食樹として記録されている。北海道ではシラカンバ，ウダイカンバから採れた。

年2化，蛹越冬，成虫は春と夏に出現するという。北海道の低地では終齡幼虫が7月下旬に採れ，飼育下では8月上旬に蛹化，8月下旬に成虫になった。

【被害と防除】

果樹園のリンゴでは害虫化することがあるようで，防除が行われている。それ以外の樹木では発生量はごく少なく，防除は必要とされない。

【文献】

1957. 江崎悌三ほか. 原色日本蛾類図鑑 (上) : I-XIX, 1-318, pls 1-64. 保育社, 大阪.
1975. 佐藤力夫, 中島秀雄. 日本産シャクガ科食草目録. I エダシャク亜科. 蛾類通信, Suppl. 2 : 1-56.
1982. 井上寛ほか. 日本産蛾類大図鑑. Vol. 1: 1-968; Vol. 2: 1-556, pls 1-392. 講談社, 東京.
1986. 山口昭, 大竹昭郎, 編集. 果樹の病害虫, 診断と防除. 全国農村教育協会, 東京. (形態, 生態, 被害, 防除)
1987. 杉敏郎編集. 日本産蛾類生態図鑑 : 1-453, pls 1-120. 講談社, 東京.

北海道立林業試験場・緑化樹センター

セプトエダシャク shakuga/sebuto/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1991/5/1.

yochu1.JPG

「写真1」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1989.